
糸は絡まり纏れ、やがてほぐれる

ミユキハルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

糸は絡まり纏れ、やがてほぐれる

【Nコード】

N7725Q

【作者名】

ミユキハルト

【あらすじ】

詩です。5編あります。

似たような雰囲気のものを集めて載せました。暗いです。

（前書き）

詩、みたいなものを書きました。

詩自体をあまり書いたことがないので、
何が正しいのかは全然わかりません。

その時々には浮かんだ言葉を繋ぎ合わせてみました。

【雑踏】

流れるように過ぎていく。

流れるように消えていく。

溺れるように落ちていく。

溺れるように混濁する。

時に支配され、時に従順な私たち。

~~~~~

【虚像】

大きく開いた瞳孔に映るのは、

焦点の合わないぼやけた残像。

もともと世界は、

そういうものなのかもしれない。

けれど私たちはずっと、

目の前の錯覚を信じている。

くくく

【目尻に伝う】

寝そべって。

目の少し上辺り、掌を押しつける。

真っ暗だ。

心が。

床の下にめり込んで、沈み込んで。

音をなくした。

くくく

【無】

花が舞って。

風が吹いて。

目を閉じて。

そして。

近くが遠くに見える目の前で。

花が舞って。

色を感じて。

もう一度瞬きをして。

胸の真ん中あたりに広がる空虚さに気づく。

さらさらと髪が風に吹かれて。

暖かさが体を包んで。

頭の奥は冷たくて。

無音。

頭上の真っ青な空だけが自分に近い存在で。

やけに鮮明な大きな色で。

瞬きを忘れた瞳から涙が伝った。

不思議と、胸には何のわだかまりもなくて。

無感覚。

何か大事なものを、知らぬ間に自分は痛みもなく失っていた。

く  
く  
く

【おもいわずらう】

忘れて。

忘れて。

忘れて。

そういったことをすべて忘れて、歩いていく。

（後書き）

何かつらいことがあっても、そのまま固まってちゃいけないんです。

考えること。そつと息を吐くこと。涙を流すこと。忘れること。

歩みを止めないために、また自分で1歩踏み出すために、それは必要なことです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7725q/>

---

糸は絡まり纏れ、やがてほぐれる

2011年10月8日17時53分発行